

平成25年12月18日

静岡県知事

川勝 平太様

民主党・ふじのくに県議団

会長 野澤 義雄

## 平成26年度当初予算編成に対する要望について

現在、“ふじのくに”づくりの総仕上げのための次期総合計画「後期アクションプラン」の策定が進められております。来年度は、この後期アクションプランのスタートとなる大切な年であり、例年以上に、来年度当初予算編成に注目しております。

さて、現在、国内の景気は持ち直しの動きが見られており、景気動向指数はリーマンショック前の水準に回復するなど、今後、世界景気が下振れするリスクもあるものの、明るい兆しも感じられるところであります。

本県の景気についても、個人消費など需要面を中心に持ち直しの動きが続いており、県税収入等の歳入増加を期待するところであります。

一方で、先ごろ公表された各部局からの予算要求提出状況は、県税収入の増加を見込んでいるものの、現時点での財源不足は428億円とのことであり、厳しい予算編成になることが見込まれます。

このため、事業の選択と集中により、限られた財源を効率的かつ効果的に活用し、「富国有徳の理想郷 “ふじのくに”づくり」実現のための財源を確保しなくてはなりません。

そこで、本日、私たち民主党・ふじのくに県議団は、来年度の予算編成に当たり、最も重要と考える7項目について、以下のとおり要望を提出いたします。

# 平成26年度予算編成に対する重点要望

民主党・ふじのくに県議団

## 7つの最重点要望

### 1. 安全・安心な社会づくり

第4次地震被害想定に基づいた「地震・津波対策アクションプログラム2013」を着実に実行するとともに、近年多発している局地的集中豪雨等の風水害や中部電力浜岡原子力発電所に関する広域避難計画の策定、オフサイトセンター移設などに早急に取り組むこと。

### 2. 徹底した行財政改革の実施

少子高齢・人口減少等に伴い派生する様々な行政ニーズに柔軟に応えるべく、県債残高の縮減はもちろんのこと、部分最適ではなく全体最適という視点でもって、ファシリティマネジメントや外郭団体の統廃合、さらには企業会計・特別会計の見直し等、行財政改革を聖域なく断行すること。

### 3. 効果的な経済対策の実施と新たな雇用の創造

拡大するアジアの活力を取り込むとともに、農林水産業をはじめとする成長分野への積極支援など、効果的な経済対策を展開すること。また、「静岡県雇用創造アクションプラン」の抱く理念を確実に推進し、誰もが就業できる環境を実現すること。

### 4. 教育環境の充実と確かな学力の醸成

「確かな学力」育成のため授業改善や教員の指導力を高め、必要な教職員の確保と適正配置に取り組むこと。また、静岡式35人学級の成果と課題を検証し、特別支援や保護者対応など、地域全体で学校を支える体制を構築すること。

### 5. 内陸フロンティア構想の着実な推進

ふじのくに防災減災・地域成長モデルである内陸フロンティアを拓く取組みを進めるにあたり、市町との連携を一層強化するとともに、規制緩和等、国との折衝を積極的に行うことで事前復興の理念を具現化し、もって富国有徳の理想郷・ふじのくにづくりを実現させること。

## 6. 誰にも優しい安心の健康福祉の実現

子育ては尊い仕事として社会的に評価される安心して子育てができる環境整備や、働く現役世代の介護負担を軽減できる介護環境の充実などのほか、医療人材の積極的な確保等による医療体制の充実を図るなど、県民が安心して暮らせる健康福祉社会を実現させること。

## 7. 憧れを集める魅力ある“ふじのくに”“づくりの実現

富士山及び構成資産の保存管理を着実に進め、富士山世界遺産登録や東京オリンピック・パラリンピック開催決定等を契機とした本県の観光客受入体制の整備を行うとともに、県の玄関口である富士山静岡空港の魅力向上による路線の充実を図るなど、国内外からの誘客を促進すること。